観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年　７月　２日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人 起立工商ＤＭＯ	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 上峰町	
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所 383-1	
設立時期	平成 29 年 3 月 30 日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	3 人【常勤 3 人（正職員 3 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	竹尾 恵介 一般社団法人 起立工商ＤＭＯ 代表理事	社団法人の運営・管理に関わり、上峰町の情報共有やパイプ役となっており、様々な取組で成果を挙げている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	竹尾　恵介 一般社団法人 起立工商 DMO	社団法人の運営・管理に関わり、上峰町の情報共有やパイプ役となっているとともに、観光地域マーケティングについて能力を持つ。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	白壁　伸太【専従】 一般社団法人 起立工商 DMO	持続可能な運営のため、経理事務、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材）	白壁　伸太【専従】 一般社団法人 起立工商 DMO	イベント関連の業務の経験を活かし、各種イベントの企画・運営を行なっている。（一社）起立工商 DMO におけるイベント及びプロモーションの企画・運営・実施を担当。

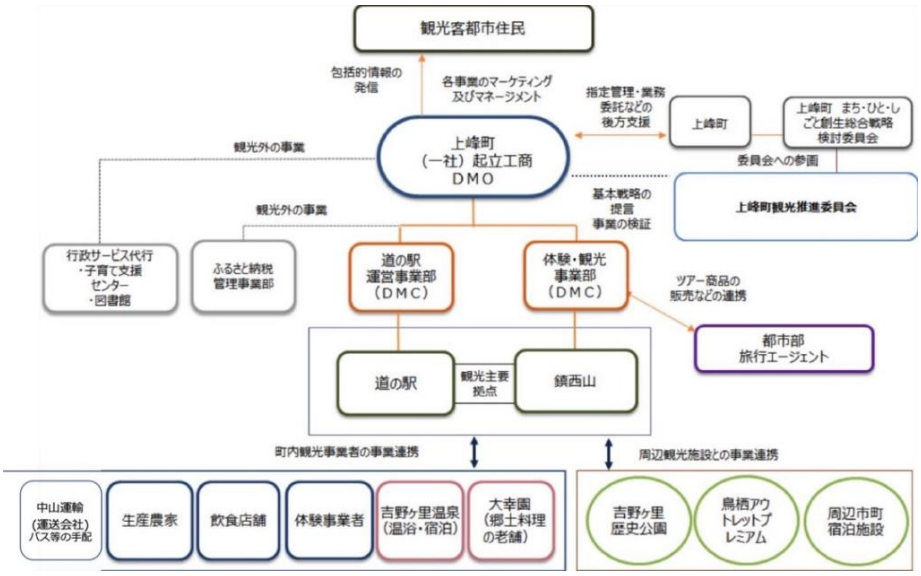
様式１

※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること		観光協会との連携、連絡、調整に従事。
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	林田　雅子【専従】 一般社団法人 起立工商 DMO	一般企業にて WEB 制作、画像加工、動画編集を担当。これまでの経験を活かし、各種 WEB プロモーションを中心に幅広く従事。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	■上峰町 政策課 ・地方創生（観光振興、交流拠点整備）、都市公園、ふるさと納税 ■佐賀県 地域交流部 ・さが創生推進課「自発の地域づくり」事業による福祉農業の事業化支援 ・空港課・国際課 佐賀空港を活用したインバウンド誘客 ■佐賀県 農林水産部 農政企画課 ・農村ビジネスにおける情報発信 ・農村ビジネスイベント実施支援 ■農林水産省 九州農政局 農村振興部 農村計画課 ・農泊ビジネスの体制構築に関する指導、助言、情報提供 ■公益財団法人佐賀県地域産業支援センター農村ビジネス 振興課 ・農村ビジネスにおけるマーケティングサポート ・観光ビジネスにおけるコンサルティング ■一般社団法人 佐賀県観光連盟 経営・地域支援部 ・観光業界全体、地域内のニーズ把握に関する指導、助言、情報提供 ■一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう) ・ グリーンツーリズムに関する指導、助言、情報提供 ■九州運輸局 観光部観光地域振興課 ・観光庁等の補助金申請において助言・指導	
連携する事業者名及び役割	■上峰町商工会 ・ふるさと納税返礼品提供 ・地域 PR 商品の開発、販売 ■社会福祉法人上峰町社会福祉協議会 ・ふるさと納税事務支援業務 ■B 型就労継続支援施設ふれあいかん ・イベント等への食の提供 ■堤地区自治会	

	・オリーブ葉の収穫・乾燥・粉砕による福祉農業事業の企画、実施 ■株式会社中山運輸 ・タクシー、バス等の手配 ■吉野ヶ里温泉ホテル ・宿泊プラン、宴会プランの造成、提供 ・多様なインバウンド需要への対応（団体客やハラールメニュー対応等） ・体験プラン会場の提供 ■大幸園（郷土料理の老舗） ・鎮西山の観光モデルとの事業連携 ・王将戦の対局会場 ・体験プランの造成、提供 ・体験プラン会場の提供 ■割烹大川(レストラン) ・イベント等への食の提供 ■凸版印刷株式会社 ・トレイルランニングイベントの開催支援 ■株式会社リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター ・より効果的な広報方法など広報に関する指導、助言、情報提供 ■株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 (地球の歩き方 総合研究所) ・インバウンドマーケティング及びホスピタリティに関する指導、助言 ■日本将棋連盟 佐賀県支部連合会 ・王将戦等の将棋イベントの開催支援、企画 ■株式会社スポーツニッポン新聞社 ・王将戦等の将棋イベントの開催支援及び広報 ■株式会社 毎日新聞社 ・王将戦等の将棋イベントの開催支援及び広報 ■都紀女加王墓と古墳公園を守る奉仕団 ・地酒「鎮西八郎」の開発支援
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【 該当する登録要件 】① 組織を構成している理事および社員に、行政・観光・農林漁業・交通運輸等を営む方々に参画していただいている。 また国内外の観光関連の有識者、町内の主たる施設の職員、事業者との意見交換を行うことで、外部の目から見た現在のサービスや施設の評価、課題の抽出等に協力していただいている。

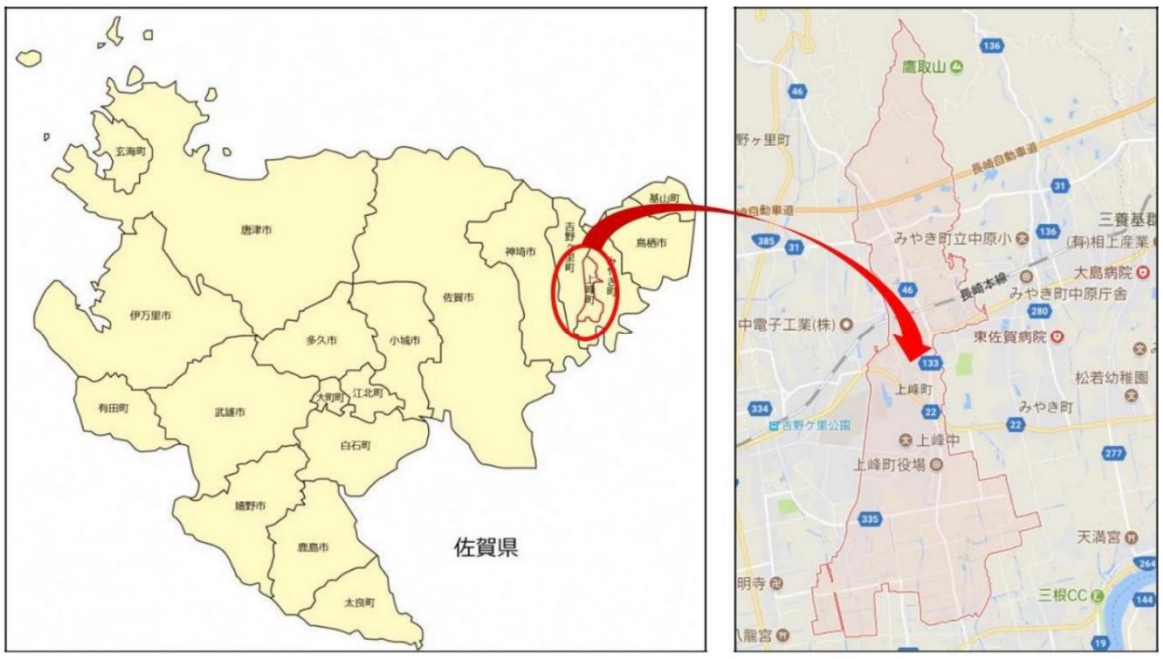
<table>
<tr><td></td><td>引き続き多様な業種の関係者と協力して取り組むとともに、外部のアドバイザーにすすんで、アドバイザリーボードとして組織化し、継続的な評価を得られるよう体制を構築したい。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>毎年 4 月には『鎮西山ふれあいの森フェスタ』を開催。鎮西山において、町民 100 名参加のウォーキング大会と県内外から 350 名のトレイルランニング大会を開催し、参加者におもてなしを行いながら、本町の観光資源について PR を行っている。このイベントの開催により、町民がおもてなしの心で観光地域づくりに貢献するとともに、駐車場整備に係る雇用創出にもつながった。町民自らが DMO 活動に参画することで、観光づくりへの意識の啓発につながっている。
毎年開催している王将戦においては、前夜祭・大盤解説会に、町民席を確保し多くの町民にも参加してもらうことで、王将戦の町としての意識づくりに取り組んだ。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・デジタルマーケティングによるプロモーション事業
まちの魅力を発信する動画コンテンツを企画・作成し、Youtube 等のメディアに掲載、まちの認知度の向上や町内への移住・定住を図っている。</td></tr>
<tr><td>受入環境の整備</td><td>・町と協力して、中心市街地開発事業の一環として「道の駅かみみね」を建設しオープンさせた。地域の特産物を目当てに広範囲から多くの来場者が訪問。24 時間トイレも完備しており、キャンピングカーでの訪問者も多い。</td></tr>
<tr><td>観光資源の磨き上げ</td><td>・コンパクトシティを目指して、観光も「道の駅かみみね」からスタートできるように、試行錯誤中。近隣の吉野ヶ里温泉（上峰町内）やお食事処大幸園との連携を強化している。</td></tr>
</table>
【定量的な評価】
・ふるさと納税を中心とした活動を行なっていた。
・国民スポーツを契機とした、上峰町の PR をはじめ、移住者交流会などの新たな取り組みを行っている。
今後は整備された道の駅を中心として中心市街地の整備を進めるとともに、新たな事業も展開して上峰町の活性化に繋げていきたい。</td></tr>
</table>

様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** （（一社）起立工商ＤＭＯが中核となり、行政・上峰町観光推進委員会との 連携を行い、町内事業者（商工事業者・宿泊業者、飲食業者、交通事業者、農業者）の多様な関係者が参画するなど、官民が密接に連携した運営を実施。年に一回以上開催される社員総会や理事会等の各会議により合議のうえで多数決による意思決定を行っている。 **【実施体制図】** 

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

・佐賀県の東部、佐賀市と久留米市の中間に位置する町で、佐賀市中心部から東へ約 15km、また福岡県 久留米市中心部からは西へ約 15km であり、昔から佐賀県・福岡県における往来の盛んな場所に位置する。町域はほとんどが佐賀平野の一部に含まれており、平地が多い。町の北部には平安時代末期の武将源為朝が鎮西八郎と称して九州を平定する際、城を築いた「鎮西山」がある。上峰町としての観光振興としての取り組みは途上となっており、町の有する観光資源などを活用し、新たな観光の仕組みを構築して行く上で、当該町内で連携した区域設定とするのが適切と考える。

【観光客の実態等】

【観光客の実態等】

令和 6 年度の観光客入込客数 249,019 人　延べ宿泊者数は 14,962 人　消費額は 378,508,000 円

観光資源の開発が遅れていることもあって観光客の数は横ばい状況である。宿泊数も同じく伸び悩んでいる。個人の消費額は 1500 円程度であり、商品開発等、一個人の商品額が大きくなるよう工夫していく必要がある。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

・王将戦の開催

平成 29 年度より王将戦を上峰町で開催。令和 6 年度は藤井聡太七冠が 4 勝 1 敗で前半で勝敗が決まり、地元開催とはならなかったものの、藤井七冠や小林健二九段、水町みゆ女流初段らを招いた祝賀会や、小学校訪問、子ども王将戦を実施した。

・上峰町つばきの森トレイルランニングの開催

上峰町の観光地のひとつである鎮西山において、トレイルランニングの大会及びウォーキング事業を開催。町内外より合計 450 人以上が参加した。参加者には上峰町の特産品を配布し PR に努めた。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

・吉野ヶ里温泉ホテル

吉野ヶ里温泉の同敷地内にある宿泊施設。 90 部屋（洋室・和室）を保有し、120 名程度の収容が可能である。 宿泊者については、自由に吉野ケ里温泉への入浴を楽しむことができる。 近隣地域での長期ビジネスによる利用客やインバウンド旅客も増えている。

・大幸園

王将戦の対局会場となった囲炉裏端で佐賀牛や海の幸を自分達で 焼いて食べることのできる料亭においても 1 組限定で宿泊することができる。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

上峰町には、JR 長崎本線が通っているが、上峰町内に駅はない。最寄駅は、吉野ヶ里公園駅（吉野ヶ里町）と中原駅（みやき町）となっている。 車では、長崎自動車道が町の北部を通っており、東脊振 IC（吉野ヶ里町）から 6 ㎞となっている。また、 町の中部（商業集積地）には、国道 34 号線が通っており、佐賀県東部では一番交通量の多い、久留米分 岐交差点（吉野ヶ里町）があり交通の要となっていることから、交通の便が非常に良く、佐賀県東部の交通網の中心的位置づけにある。

【外国人観光客への対応】

■インバウンド需要への対策佐賀空港等の定期国際航空路線誘致・拡充を背景に、インバウンド需要が近年増加しており、ニーズも多様化している。また、羽田との国内線に乗り継いで佐賀へ訪れるインバウンドや新幹線において新鳥栖駅からバスで移動する旅客も少なくない。道の駅ができ、インバ

ウンドの受け入れも考慮にいれた対応を進めている。また、今今後も、中心市街地の整理が進むにつれて、外国人観光客も増加すると見込んでいるため、受け入れの対応について協議をすすめている。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	施設等の売上実績において算出。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	施設への宿泊者数の調査。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	WEB 管理サイトからアクセス数を調査
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	アンケート調査を自主事業として実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

認知された観光コンテンツに乏しい上峰町ではあるが、町内の宿泊施設等を活用し、インバウンド客をはじめ多様な国・地域からの来訪者の受入れ実績を積み重ねている。町単独のプロモーションによる集客増よりも、吉野ヶ里町の「吉野ヶ里歴史公園（年間来場者数 70 万人）」や鳥栖市の「鳥栖プレミアムアウトレット（年間来場者数 500 万人）」等周辺地域の魅力ある集客施設とも連携を図り、地域連携における周遊性の 向上と、上峰町への誘客促進を目指し、交流人口の増加につなげることとしている。まずは、上峰町内での観光モデルを確立し、運営体制の充実を図り、その次のステップとして、地域連携ＤＭＯとしての機能を備え、実施体制の構築を図りたい。	※地域経済 （例）〇〇 響で就業者 を中心とし 消、交流人

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ・JR 長崎本線、長崎自動車道からの交通アクセスが良い。 ･道の駅かみみねオープン。今後も中心市街地の開発により、「道の駅」「複合文化施設」「競技場」が整備など、集客拠点の整備を進めている。 ・鎮西山の再整備など観光拠点の整備が進んでいる。	弱み（Weaknesses） ・上峰町のこれまでの、観光振興への取り組みが希薄である。 ・上峰町内の観光コンテンツが少ない。（町が有する観光資源の未活用・未整備） ・観光事業者数が少ない。 ・上峰町に、突出したイメージがない。（陶器の町、神社仏閣、温泉・グルメなど） ・農産物において、名産品がない。

	・ふるさと納税において、上峰町の名前が全国に周知されている。 ・鎮西山を活用したトレイルランニングなど観光コンテンツの開発が進んでいる。	・周辺地域との観光における連携が希薄である。（吉野ヶ里公園など） ・交通の利便性が良い分、町内の生活消費・観光消費が、近隣都市となりつつある（久留米市・鳥栖市など）。
外部環境	**機会（Opportunity）** ･佐賀県農政企画課が、農村ビジネスなどの地域活性化に向けた取り組みを推進している。 ･佐賀県観光課が観光地域づくりを推進する取り組みを積極的に行っている。 ・都市住民における観光需要が、従来の物見遊山（テーマパーク）から、地域（農山漁村）における体験観光に移行しつつある。 ・那珂川市の五ケ山ダムの整備により、福岡県からの誘客導線が変わり、上峰町への来訪機会の拡充が想定される。 ・佐賀空港や福岡空港発着の国際線を利用するインバウンド旅客が増加している。	**脅威（Threat）** ･周辺地域に強力な集客コンテンツがある。（鳥栖アウトレット・吉野ヶ里公園など） ・新たな直売所の開業や既存道の駅のリニューアルなど、周辺地域の誘客施設が充実しつつある。 ・佐賀県自体が県内外の住民にとって、観光地としての認識が希薄である。

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層 福岡都市圏の地域住民
○選定の理由 町の東に位置する久留米市と 15 ㎞しか離れておらず、来訪（通過含む）機会が多いと想定される。福岡市においても九州自動車道の東脊振 IC や東背振トンネルを利用した流入が見込める。 ○取組方針 シニア層夫婦やファミリー層の町内訪問機会増を目的とするイベントを定例化し、リピーター誘致するとともに、町民のボランティア等によるおもてなしによる参加を促進し、交流機会を増加、町の利便性・暮らしやすさの認知度向上を目指す。移住を検討する若いファミリー向けの住宅施策や子供のいない高齢者夫婦等向けの樹木葬等、観光施策と連動すべき町の施策を DMO として協力・推進する。
○ターゲット層 佐賀市民及び周辺市町住民
○選定の理由 佐賀県と福岡県を移動する基幹道路である、国道 34 号線が町の中部を通っており、周辺地域住民及び佐賀市民の流入が見込める。 ○取組方針 シニア層夫婦やファミリー層の町内訪問機会増を目的とするイベントを定例化し、リピーター誘致するとともに、町民のボランティア等によるおもてなしによる参加を促進し、交流機会を増加、町の利便性・暮らしやすさの認知度向上を目指す。移住を検討する若いファミリー向けの住宅施策や子供のいない高齢者夫婦等向けの樹木葬等、観光施策と連動すべき町の施策を DMO として協力・推進する。
○ターゲット層 インバウンド旅客

〇選定の理由
佐賀空港発着ＬＣＣによりアジアからのインバウンド旅客が増加している。欧米豪との路線を持つ首都圏空港からの乗継によるインバウンド旅客の増加が期待される。
〇取組方針
アジアからの団体客やＦＩＴ等多様な旅客のニーズに対応できるよう、宿泊施設等との連携を強化していく。学校間交流等町民との国際交流を促進する。農業体験や山伏・山岳信仰等地域に謂れのある文化・歴史について生涯学習と連携し掘り起こしを行っていく。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	一過性に終わらず、継続して拡大していける交流のコンテンツ開発を目指し、イベントの定例化から交流拠点となる施設整備を行い、町及び周辺地域の幅広い観光関連産業の振興に寄与する。
②コンセプトの考え方	アジアからの団体客やＦＩＴ等多様な旅客のニーズに対応できるよう、宿泊施設等との連携の強化を行い、国際交流を促進に努める。農業体験や文化・歴史について生涯学習できる環境も整え、掘り起こしや商品化を行う。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	（一社）起立工商ＤＭＯが主体となり、メンバーには、行政、宿泊施設、飲食事業者・商工会のみならず、農業者及び地域づくり団体など多様な関係者が参画するなど、官民が密接に連携した組織づくりを目指す。
	ＤＭＯを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニーションの場を２月に１回程度設けるとともに、関連事業者に対しての会議を実施
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	（一社）起立工商ＤＭＯが主体となり、観光事業におけるコンテンツの磨き上げなどのコンサルティング及び観光リソースとなる人材の育成を行っていく
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	ふるさと納税者及び e コマースビジネスにおける CRM の推進において、質の高い情報の発信を SNS の活用などで行っていく

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	250	250	380	380	380	380
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	実績	243	367	367			
		(0)	(0)	(0)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	20	20	20	20	20	20
		(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	実績	16.2	18	18			
		(0)	(0)	(0)			
●来訪者満足度（%）	目標	97	100	97	97	97	97
		(93)	(96)	(95)	(95)	(95)	(95)
	実績	94	94	94			
		(93)	(93)	(93)			
●リピーター率（%）	目標	26	27	27	27	27	27
		(11)	(12)	(12)	(12)	(12)	(12)
	実績	25	25	25			
		(10)	(10)	(10)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
「観光消費額」については、佐賀県観光客動態調査をもとに実績/目標を設定した。「延べ宿泊者数」については、町内の宿泊施設へヒアリングを実施し、実績/目標を設定した。「来訪者満足度」「リピーター率」については、当法人にて開催/協賛等を実施したイベント等でのアンケートを参考に実績/目標を設定した。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
佐賀県観光客動態調査をベースとして算出。

●延べ宿泊者数
上峰町にある吉野ヶ里温泉の宿泊者数をベースに算出

●来訪者満足度
施設等の利用に対する聞き取りを参考に算出。

●リピーター率
来訪者アンケートを実施。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●住民満足度（%）	目標	95 （ 90 ）	95 （ 90 ）	96 （ 91 ）	97 （ 92 ）	97 （ 92 ）	97 （ 92 ）
	実績	95 （ 94 ）	95 （ 94 ）	95 （ 91 ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
【設定にあたっての考え方】
●住民満足度
住民満足度調査

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	260,500,000（円）	町からの業務委託 ・商品開発補助金 4,500,000 円 ・魅力発信拠点づくり事業 5,000,000 円 ・ふるさと納税管理運営業務 230,000,000 円 ・農業体験観光の実施 11,000,000 円 ・インバウンド事業 5,000,000 円 ・古民家再生事業 5,000,000 円
2023（Ｒ５）年度	290,594,090（円）	町からの業務委託 ・商品開発補助金 20,011,400 円 ・魅力発信拠点づくり事業 1,344,000 円 ・ふるさと納税管理運営業務 262,500,000 円 ・インバウンド事業 6,838,690 円
2024（Ｒ６）年度	303,375,000（円）	町からの業務委託 ・ふるさと納税管理運営業務 116,234,000 円 商品開発・魅力発信拠点づくり事業 181,847,000 円 インバウンド事業 5,294,000 円

2025（Ｒ７） 年度	2,330,000（円）	商品開発・魅力発信拠点づくり事業 18,000,000 円 インバウンド事業 5,300,000 円
2026（Ｒ８） 年度	2,330,000（円）	商品開発・魅力発信拠点づくり事業 18,000,000 円 インバウンド事業 5,300,000 円
2027（Ｒ９） 年度	2,330,000（円）	商品開発・魅力発信拠点づくり事業 18,000,000 円 インバウンド事業 5,300,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	245,828,054(円)	町からの業務委託に係る再委託費 205,828 千円 その他の事業費 20,000 千円 人件費 15,500 千円 その他の経費 4,500 千円
2023（Ｒ５） 年度	286,343,355（円）	町からの業務委託に係る再委託費 132,723,397 円 その他の事業費 43,268,858 円 人件費 46,513,337 円 その他の経費 63,837,763 円
2024（Ｒ６） 年度	491,677,000（円）	ふるさと納税関連費 218,660,000 円 その他の事業費 228,460,765 円 人件費 44,557,000 円
2025（Ｒ７） 年度	233,000,000（円）	事業費 10,000,000 円 人件費 8,300,000 円 その他経費 5,000,000 円
2026（Ｒ８） 年度	233,000,000（円）	事業費 10,000,000 円 人件費 8,300,000 円 その他経費 5,000,000 円
2027（Ｒ９） 年度	233,000,000（円）	事業費 10,000,000 円 人件費 8,300,000 円 その他経費 5,000,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

一般社団法人 起立工商ＤＭＯは、平成 29 年 3 月設立。平成 30 年度地方創生推進交付金を活用し、DMO 推進による稼ぐ観光商品づくりと地域の魅力向上・発信を目的に活動している。町の地域再生計画において位置づけられた、『コンパクトで住みよいまちづくり』を推進する団体として、地域再生エリアマネジメント負担金や地域通貨等関連事業の実施主体として得るべき適正なフィーを収益の柱とする事業計画の策定と実現のための条例整理等について現在町との協議を進めている。平成 30 年、ＤＭＯ候補法人に認定。令和元年７月には佐賀県初日本版ＤＭＯに認定され、それと同時にふるさと納税業務を町から受託し、町の税収増加に努め、安定的な委託料の確保に取り組んでいる。今後も交付金を前提としてではなく、独自の収益事業にも積極的に取り組んでいくことで組織の安定化を図りたい。 令和 2 年 8 月より一般社団法人起立工商協会から、一般社団法人起立工商ＤＭＯに社名を変更。継続的な活動に向けて積極的に務める。

様式１

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

佐賀県上峰町は、上位計画（総合戦略）に沿って、上峰のまちづくり、特に地域の稼ぐ力の醸成を意識した観光の産業化に向けて、今までになかった観光推進活動を展開中です。こうしたことから、（一社）起立工商ＤＭＯに期待する部分は非常に大きなものとなっており、同法人を当町における地域 DMO として承認します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

重複しない

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	白壁　伸太
担当部署名（役職）	一般社団法人　起立工商 DMO 専従職員
郵便番号	849-0123
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所 383-1
電話番号（直通）	0952-55-8777
ＦＡＸ番号	0952-55-8778
Ｅ－ｍａｉｌ	kiriukosho@gmail.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	佐賀県 上峰町
担当者氏名	河上 昌弘
担当部署名（役職）	政策課長
郵便番号	849-0123
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字坊所 383 番地 1
電話番号（直通）	0952-52-2182
ＦＡＸ番号	0952-52-4935
Ｅ－ｍａｉｌ	seisaku@town.kamimine.lg.jp

（候補／登録）【登録区分】（DMO名称）

様式2

記入日：　令和7年7月2日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
　佐賀県三養基郡上峰町
【設立時期】　平成29年3月30日
【設立経緯】
　　④その他
【代表者】　竹尾　恵介
【マーケティング責任者（CMO）】　竹尾　恵介
【財務責任者（CFO）】　白壁　伸太
【職員数】　3人（常勤2人（正職員2人）、非常勤1人）
【主な収入】
　収益事業　262百万円、委託事業　28百万円（令和6年度決算）
【総支出】
　事業費　176百万円、一般管理費　110百万円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】
　吉野ヶ里温泉ホテル、上峰町商工会、大幸園、
　つばきまちづくりプロジェクト

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	250（1）	250（1）	380（1）	380（1）	380（1）	380（1）
	実績	243（0）	367（0）	367（0）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	20（2）	20（2）	20（2）	20（2）	20（2）	20（2）
	実績	16.2（O）	18（0）	18（0）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	97（93）	100（96）	97（95）	97（95）	97（95）	97（95）
	実績	94（ 93 ）	94（93）	94（93）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	26（ 11 ）	27（ 12 ）	27（ 12 ）	27（ 12 ）	27（12 ）	27（12 ）
	実績	25（ 10 ）	25（ 10 ）	25（ 10 ）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
・福岡都市圏の地域住民
・佐賀市民及び周辺市町住民
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・訪問機会増を目的としたイベントの定例化
・町の利便性・暮らしやすさの認知度向上を目
　的としたボランティア等によるおもてなし参加
【観光地域づくりのコンセプト】
　一過性に終わらず、継続して拡大していける交 流のコンテンツ開発を目指し、イベントの定例化 から交流拠点となる施設整備を行い、町及び周辺 地域の幅広い観光関連産業の振興に寄与する。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・将棋王将戦を実施
・天衝米を企画開発、造成
・地酒鎮西八郎を企画開発、造成

【受入環境整備】
・インバウンド需要への対策事業
・体験型観光商品開発や
　多言語化の推進

【情報発信・プロモーション】
・デジタルマーケティング事業
・上峰町PVショートムービー
　「As it is! KAMIMINE」他